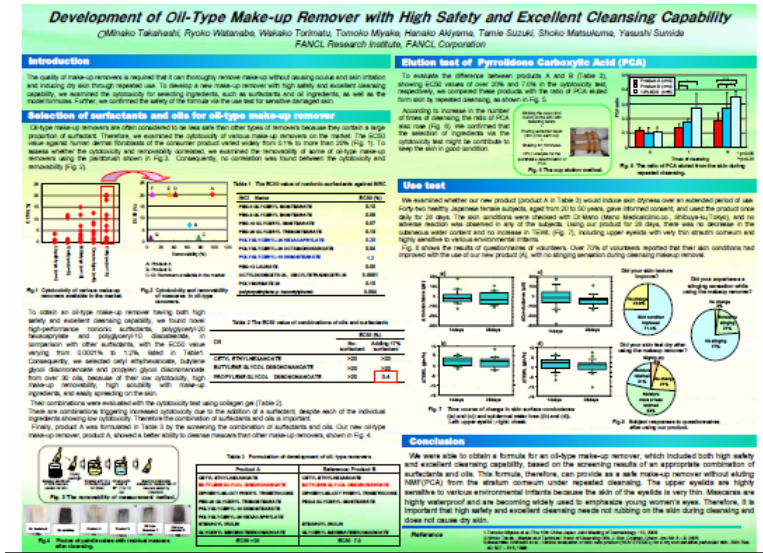


オイルクレンジングの優位性を確認

安全性とクレンジング力を両立、国際会議で発表



株式会社ファンケル（本社：横浜市中区、代表取締役社長執行役員：成松義文）では、総合研究所での基礎研究を通じ、自社開発のオイルタイプクレンジング製品について①高いクレンジング力と安全性を両立させる処方を開発したこと②肌のうるおいを保つ成分を洗い流さず、うるおいを保つこと③医師の監修で行ったモニター試験の結果、皮膚に負担をかけず、安全に使用できること——などを柱とする研究をまとめました。本研究の成果については、本年3月2日から4日に横浜で開催されたアジアにおける化粧品技術に関する国際会議「9th ASCS (The Asia Societies of Cosmetics Scientists)」で発表いたしました。この研究の内容は本年2月20日にリニューアルした「マイルドクレンジングオイル」に応用されています。当社では、この結果を受け、マイルドクレンジングオイルの拡販を進めていくほか、クレンジングに関し、さらに安全性と機能性の研究を進めていく考えです。

<本研究の経緯について>

クレンジング剤はメイクをしっかりと落とすことが大変重要ですが、強すぎるクレンジング力により肌が乾燥する、刺激を感じるといったお肌のトラブルを引き起こすケースもあります。当社では、これまでもメイクなじみが良く、肌をこすらなくてもメイクを落とすオイル剤形を選んで製品化してきました。今回は、高い洗浄力と肌への優しさを兼ね備えた製品を開発すべく、新規油剤と新規界面活性剤を開発し、これらを配合した製品について細胞や肌のうるおいに大きく関与する成分NMF（天然保湿因子）の一つであるPCA（ピロリドンカルボン酸）を指標とした評価系を用いて確認しました。

(株)ファンケル
 本社：神奈川県横浜市中区山下町 89-1
 代表取締役社長執行役員：成松義文
 設立：1981年8月
 連結売上高 993億円(平成20年3月期)

本件に関するお問い合わせ
 広報グループ 野田靖、油井紀子:045-226-1230

<研究内容について>

一般的にオイルクレンジングは、メイク落ちが良いものの、界面活性剤を多く含んでいるため、他剤形のクレンジング剤より安全性が低いと考えられるケースが散見されておりました。

しかし、実際に市販のクレンジング剤について、人の肌の細胞を用いた細胞毒性試験(刺激性の代替法試験)を用いて安全性を評価すると、**図1**に示すように安全性には幅があり、一概にクレンジング剤の安全性が剤形の種類に関わるものではなく、また、クレンジング力が高いからといって安全性が低い、という結論を推察するものではありません(**図2**、**図3**)。

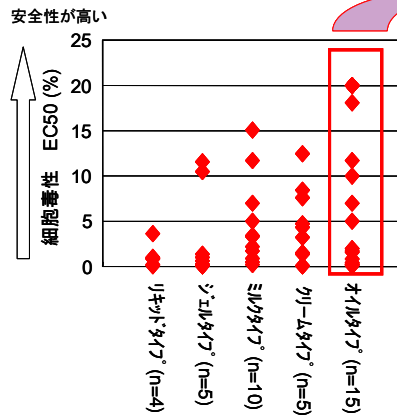


図1 クレンジングの種類と細胞毒性

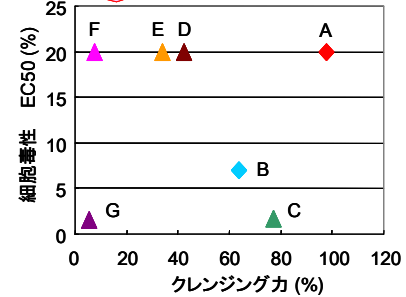


図2 オイルクレンジングの細胞毒性とクレンジング力

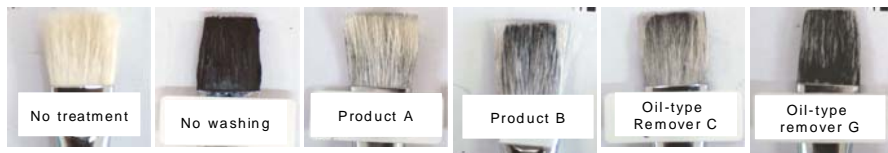


図3 絵筆につけたマスカラの落ち具合の様子

高いクレンジング力と高い安全性の両者の機能を両立させるために、当社では新規に界面活性剤及び油剤の開発に取り組みました。その結果、界面活性剤単独、油剤単独では低い細胞毒性を示した原料であっても、両者の組み合わせ次第では細胞毒性が著しく高くなる組み合わせがあることから、種類の組み合わせについて、クレンジング力と安全性のバランスをとりながら、最もクレンジング力が高く安全性も高い組み合わせを得ることができました(**図3 product A : 弊社マイルドクレンジングオイル**)。

このように、細胞レベルで界面活性剤と油剤を組み合わせた処方、実際、どの程度ヒトの皮膚において影響を及ぼすのかについて、NMF(天然保湿因子)のなかでも特に保湿に重要なPCA(ピロリドンカルボン酸)の溶出性を人の皮膚を使って、比較しました。

実験では最も細胞毒性の低い product A(弊社:マイルドクレンジングオイル)と product B(中程度の細胞毒性)、さらに代表的なアルカリ性界面活性剤(SDS:ラウリル硫酸ナトリウム)で溶出性を比較しました。その結果、product BとSDSでは、何回か洗浄を繰り返すと、明らかに肌のバリア性が破壊され、PCA溶出量の差は大きくなり、product Aの高い安全性が示唆されました(**図4**)

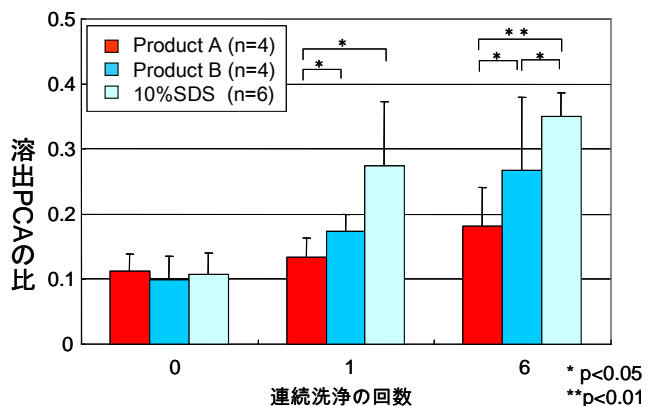


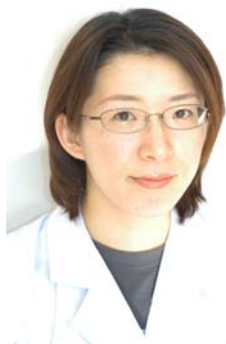
図4 連続洗浄時のPCA溶出比

さらに、長期間の使用により肌の乾燥や刺激を引き起こさないことを確認するため、マノメダイカルクリニック（所在地：東京都渋谷区、まのえいこ院長）の監修のもと、連用モニター試験を実施しました。その結果、28日間の使用で70%以上の被験者の方が、クレンジング剤を変えるだけで肌状態が改善されたと答えました。また、ニキビがしやすい方にも皮膚に負担をかけず、安全に使用できる製品であることがわかりました。女性は、特に、目元のメイクを落とすため、皮膚の中でも特に薄いまぶたの皮膚をこすることが多く、眼部位の皮膚炎の発生率は男性の発生率に比べ、大変高いといわれていますが、特に春先の敏感な肌状態でも安心して使用できるクレンジング剤を研究開発することができたと考えております。

<対外発表と今後の展開>

この研究成果は本年3月2日から4日に横浜で開催されたアジアにおける化粧品技術に関する国際会議「9th ASCS (The Asia Societies of Cosmetics Scientists)」で発表いたしました。総合研究所では、今後も世の中の不を解消するべく、機能性の高さや安全・安心・肌への優しさを兼ね備えた製品を開発し、多くの皆様の素肌美に貢献したいと考えております。

<研究者紹介>



機能性と安全性のバランス。ファンケルでは、一人でも多くの敏感肌のお客様が機能性に優れた製品をお使いいただけるようこのバランスを日々追求し、研究を続けています。今回、安全性・品質研究センターの研究者が一丸となって、オイルクレンジングの「高い洗浄力と肌への優しさ」というバランスを見つけ出し、今年2月に発売されたマイルドクレンジングオイル誕生となりました。

使用試験の際には、多くの被験者の方から「今までのクレンジングオイルと違う」とうれしいお声をいただいた自信作です。今後も、安全性や皮膚生理学についての研究をよりいっそう深め、敏感肌の方にも安心してお使いいただける製品の開発に取り組みたいと考えております。

株式会社ファンケル 総合研究所 安全性・品質研究センター
皮膚科学グループ 高橋美奈子

1974年静岡県生まれ。1998年東京農工大学大学院工学研究科物質生物工学専攻卒業。

同年、株式会社ファンケルに入社。化粧品の処方開発、機能性評価を経て現在では敏感肌研究、臨床試験といった安全性の研究に携わる。

本件に関するお問合せ先

株式会社ファンケル

広報グループ：野田靖 油井紀理子

〒231-8528 横浜市中区山下町 89-1

TEL.045-226-1230/FAX.045-226-1202